

場所	長崎県五島市
面積	0.49ha
活動目的	円畑の体験を通じて、五島の自然の素晴らしさを知ってもらい、持続可能な自然利用を保ちつつ、文化振興、環境保全、経済活動の活性化に関する事業を行うことにより、五島列島の地域振興と椿関連産業の振興に寄与することを目的とする。



サイト概要	粘性の低い玄武岩質の緩やかな傾斜の溶岩台地に位置し、海に向かう蛇行する水脈に沿って古来より円畑が開墾され、畑の周囲は、東シナ海の強い季節風に備えて広葉樹である椿が防風林として植栽され、また椿油を採るための経済林としても機能している。また、円畑の周辺には高木の広葉樹が自生し、小動物が生息できる環境が形成されている。円畑同士を結ぶ水路は普段は枯れて伏流水だが、雨等が降ると、水が流れ、各円畑を潤し、当該地脇の水路は約100m先の溶岩海岸に流れ出る。この流れて出る先の溶岩海岸では、普段から海の浅場で湧水がいたる所に存在しており、魚介類が豊富に生息しており、昔からスケアン漁（石を積み上げて造る漁具）も盛んに行われていた。
-------	---

土地利用の 変遷	土地利用の開発は江戸時代末に大村藩から潜伏（隠れ）キリシタンの人々を五島藩が開拓農民として受け入れたことに始まる。移住者が、自然の水路に沿って畑を開墾(現在円畑と呼ばれる)し、この地域では麦と大豆とサツマイモを季節に応じて耕作を続けてきた。特にサツマイモは、薄切りにして冬期の強い風を利用して乾燥させた干芋『カンコロ』を生産し、現在も生産者は少なくなったが出荷している。
サイト周辺の 環境	周辺部は、申請サイトと同様に円畑と防風林がつながり、大規模な土地改良や開発もなく昔ながらの丸畑の風景が残されたなだらかな溶岩大地が広がる。海岸は、溶岩海岸で、海岸の浅場のいたる所で湧水が出ており、魚介類が集まり、藻場も存在する。
アピール ポイント	遣唐使船の最後の停泊地でもあり、万葉時代を彷彿させる景観が国の名勝指定されており、その海岸線に隣接する円畑地帯は古くからサツマイモの産地として確立された地域で、冬の季節風対策として周囲に植樹された椿林からは、現在日本一の産油量を誇る「五島の椿油」の種子採取も行われている。人の営みの中に豊かな自然が存在するエリアである。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

玄武岩質の溶岩で形成された三井楽半島は、なだらかな大地を形成し、この地方特有な円畑が造られサツマイモ等の農産物を生産されている。円畑の周囲には、ヤブツバキをはじめ、照葉樹林が形成されており、そこに生息する動物達を育む。また、普段はカラ水路だが、降水量が多い時期には、水路から水が海へ流れ込み栄養分を供給している。この栄養分によってプランクトンが発生し豊富な魚種が浅場の海岸に入り込む。

【主な植生】

照葉樹林、円畑、円畑で創られた石組み水路。

【確認された主な動植物など】

＜草本＞

タンキリマメ、ハチョジョウススキ、ツワブキ、、ムサシアブミなど21種

＜樹木＞

スダジイ、タブノキ、エノキ、メダケ、サルトリイバラ、ナワシログミ、トベラ、アカメガシワなど24種

＜爬虫類＞

ヤマカガシ、ニホンマムシ

＜哺乳類＞

ヒミズ、コウベモグラ



写真の説明：円畑の水路



写真の説明：エリア内の円畑。休耕期は豊かな野草群。

生物多様性の価値

価値（5）伝統工芸や伝統行事といった地域の伝統文化のために活用されている自然資源の供給の場

【場の概況】

円畑は、江戸時代に地形に合わせて造られ、円畑と円畑の間には水路を造り、周囲は樹木を植えて防風林としたが、やがて時代が経過すると、天然生の実生が成長し、円畑の周囲は照葉樹林が形成し、より堅固な防風林を形成した。現在では円畑周囲の照葉樹林は防風林として畑を守り、また、照葉樹林に分布するヤブツバキの実から椿油が生産できる。

【伝統文化等の名称】

- ・円畑
- ・かんころ餅

火山の台地は水はけが良く、サツマイモを育てるのに最適であり、米が貴重な時代に、保存食として「かんころ」が生まれました。円畑で栽培したサツマイモを薄く切り、茹でて、風干して、乾燥させたものを「かんころ」と呼びます。かんころともち米を混ぜ合わせた“かんころ餅”を生産している。

【活用している自然資源】

- ・円畑で収穫したサツマイモは、“かんころ餅”の原料となっている。
- ・円畑周囲の防風林である照葉樹林のヤブツバキからは、実を採集して椿油が精製できる。



写真の説明：サツマイモの収穫



写真の説明：円畑周囲の照葉樹林

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
・ 里山を維持するために、円畑地域での作物としてサツマイモとツバキ種子の生産を引き続き行い、周囲の水路の整備を常時行う。その水路の海への入口になる海域には、昔からの石干見漁業である「スケアン」が存在している。 ・ N P O 法人カメリア五島が中心になって、円畑の利用・保全などの他、下草の刈り払い等の維持管理作業を行う。 ・ 「野草の会」の活動を通して、四季に応じて変化する植物相や生物多様性に関する調査、保全活動を行う。また、モニタリング調査については、九州大学大学院 工学府 都市環境システム学専攻の清野聡子准教授に、協力指導頂きながら、進めていく計画である。	【モニタリング対象】 サイト内（畑、樹林、水路）の植物、昆虫類のほか、隣接地（草地）の植物 【モニタリング場所】 サイト内（畑、樹林、水路）と隣接地（草地） 【モニタリング手法】 植物の生育状況(五島山野草の会の活動による定点観察およびラインセンサス)、動物の生息状況 【モニタリングの実施時期及び頻度】 生物が観測しやすい主に春秋に実施。冬の季節風や台風が原因で円畑が荒れることがあるので、その都度、状況確認と整備補修（特に水路）。 【モニタリング実施体制】 申請者が協力団体と共に行う。 協力団体：五島山野草の会(会長・坂井豪) 有識者：清野聡子（九州大学大学院 工学府 准教授）